

特別入学者選抜のための学力検査の概要  
各教科の出題のねらい、結果の概要、応答率

## 第2 各教科の出題のねらい、結果の概要と授業改善の視点等、応答率及び問題

### 1 国語

#### (1) 出題のねらい

##### ア 全般的なねらい

思考力、判断力、想像力を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する力をみるために、基礎的・基本的事項を中心として幅広く出題している。

##### イ 問いごとのねらい

- ① 漢字を読むことや書くこと、文法や語彙、熟語、敬語、故事成語、手紙を書く際の留意事項等、国語の基礎的な知識や事項について理解の程度をみる。
- ② 古典を扱った説明的な文章によって、古典における基礎的事項の理解の程度をみる。また、文章から読み取った情報や、複数の資料を活用して理解したことを整理し、適切にまとめる力をみる。
- ③ 文学的な文章によって、文脈における語句の意味や、表現上の特徴とその効果について理解の程度をみる。また、登場人物の言動の意味や心情を文章の展開に即して理解したり、理解したことを端的に表現したりする力をみる。
- ④ 説明的な文章によって、文脈における語句の意味や、文章の全体と部分との関係について理解の程度をみる。また、文章の展開に即して理解したことを端的に表現したり、筆者の考えを正確に読み取ったりする力をみる。

#### (2) 結果の概要と授業改善の視点等

##### ア 結果の概要

漢字、品詞、慣用表現、古典の知識等、国語の基礎的・基本的な知識や言語事項に関する設問では全体的に正答率は高かった。また、文章の内容を整理して必要な情報を文章中から抜き出して解答する設問や、読み取った内容を選択肢によって解答する設問についても、正答率は概ね高かった。

一方で、敬語に関する知識を問うた設問や、複数の資料を活用して理解したことを整理し、適切にまとめる設問では、正答率が伸びなかった。また、読み取った内容を端的にまとめて記述する設問についても、解答に盛り込むべき要素を吟味し、適切に記述できている解答は少なかった。言葉の意味を正しく理解することや、文章から理解したことを整理し、字数制限などの与えられた条件に従って適切に表現することに課題がみられた。

イ 授業改善の視点等

一つ一つの言葉や反復などの表現技法に注目しながら、文章の展開に即して内容的に理解したり、理解したことに基づいて適切に説明したりするための指導の充実

〔大問③〕(4) X 正答例：一緒にボールを蹴り合うことで仲良くなる 正答率：10.5%

〔分析〕大問③(4) Xは、登場人物の心情を的確に捉えて、それを端的に表現する問題である。航大がケンゴたちの関係改善を願っていることは指摘できていても、「俺たちは単純だ」という言葉の反復に注目し、その意図を十分に理解して表現できなかったことが、正答率が伸びなかった原因だと思われる。

〔視点〕日常の指導では、比喩や反復などの表現技法の意味や用法を理解した上で、書き手がそのように表現した意図を考えながら読む意識をもたせたい。そのためには、表現技法に注目して読み、それによって何を伝えたり印象付けたりしようとしているかを考え、根拠を明確にししながら自分の考えを表現したり、自分自身が書き手となって表現技法を用いた文章を書いたりする活動が効果的である。

③ 次の文章は、高校生の「航大」が、空き地で出会った小学生の「ケンゴ」と二人でサッカーをしている場面です。……これを読んで、(1)～(5)に答えなさい。

(本文省略) 出典 真紀涼介「勿忘草をさがして」

(4) 「やつぱり、俺たちは単純だ」とありますが、このときの「航大」の心情を説明した次の文の X、Y に入れるのに適当なことを、X は二十字以内で書き、Y は文章中から七字で抜き出して書きなさい。

航大は、ケンゴたちに対して X ことを期待する自分は考えが甘いと思っていたが、知らず知らずのうちに Y 自分と同様に逸る気持ちを抑えられないケンゴたちを見て、やはり自分の望みはかなうだろうと思ひ、安心している。

文章全体と部分との関係を考えたり、具体的な例が筆者の論理の展開の中で果たしている役割を考えたりしながら内容を捉え、より深く理解するための指導の充実

〔大問④〕(4) 正答：あたりまえ 正答率：57.5%

〔分析〕大問④(4)は、筆者が友達をどのような存在として描いているかを理解し、適切な言葉を出題条件に合う形で抜き出して答える問題である。指定字数も5字と少なく、抜き出す言葉も平易なものであったが、二つの具体例が、異なる視点から描かれてはいるが類似していることに気づけず、傍線直後の形式段落から解答を探した結果、正答率が57.5%にとどまったと考えられる。

〔視点〕日常の指導では、具体例が筆者の考えや論理の展開に果たす役割を確認して、主張がどのように組み立てられているかを考える等、文章全体と部分との関係を意識させたい。そのためには、文章の構成を考えて意味段落ごとに内容を整理したり、目的に応じて必要な情報に着目して理解したことについて周囲の人々と説明し合ったりするなど、理解を深められるような活動を取り入れたい。

④ 次の文章を読んで、(1)～(6)に答えなさい。

(本文省略) 出典 戸谷洋志 「SNSの哲学 リアルとオンラインのあいだ」

(4) 「大人にとって……友達です」とありますが、筆者が友達をどのような存在として描いているかについて説明した次の文の X、Y に入れるのに適当なことを、文章中から五字で抜き出して書きなさい。

他者からすれば X なものに見える特徴を、お互いに教え合える存在。

### (3) 応答率

大問	小問	正答例	配点例 (点)	形式			応答率 (%)							
				選択	短答	記述	正答としたもの	部分点を 与えたもの	誤答としたもの	無答				
1	(1)①	こんたん	1		○		71.0		0.0		24.0		5.0	
	(1)②	おお(った)	1		○		97.0		0.0		2.5		0.5	
	(1)③	延期	2		○		72.5		10.5		10.5		6.5	
	(1)④	耕(す)	1		○		77.5		0.0		17.0		5.5	
	(2)	イ	1	○			63.0		0.0		36.5		0.5	
	(3)	ア	1	○			74.0		0.0		25.5		0.5	
	(4)①	ウ	1	○			95.0		0.0		5.0		0.0	
	(4)②	エ	1	○			98.0		0.0		2.0		0.0	
	(5)①	うかがう	2		○		17.0		16.5		63.5		3.0	
	(5)②	ア	2	○			59.5		0.0		39.5		1.0	
	(5)③	イ	2	○			67.0		0.0		33.0		0.0	
	(5)④	エ	2	○			65.5		0.0		34.5		0.0	
2	(1)	風	2		○		76.5		0.5		23.0		0.0	
	(2)	あけばまず	2		○		80.5		2.5		15.5		1.5	
	(3)	桜を尋ねて山に行く	3			○	37.5		26.0		30.5		6.0	
	(4)①	目の桜	2		○		34.5		0.0		55.5		10.0	
	(4)②	イ	4	○			36.0		0.0		63.0		1.0	
3	(1)	エ	2	○			87.5		0.0		12.5		0.0	
	(2)	イ	3	○			90.0		0.0		10.0		0.0	
	(3)	勝ってやろうという挑戦心	3		○		57.5		2.5		13.5		26.5	
	(4)X	一緒にボールを蹴り合う ことで仲良くなる	5			○	10.5		58.0		13.5		18.0	
	(4)Y	心が弾んでいる	3		○		57.5		0.0		25.0		17.5	
	(5)	ウ	3	○			61.0		0.0		39.0		0.0	
4	(1)X	依存	2		○		86.0		1.0		11.0		2.0	
	(1)Y	自分で律する	2		○		76.5		3.5		13.5		6.5	
	(2)	ウ	2	○			81.5		0.0		18.0		0.5	
	(3)	ア	3	○			54.0		0.0		45.0		1.0	
	(4)	あたりまえ	3		○		57.5		0.0		26.0		16.5	
	(5)	自分ひとりの力では気 づけない自らの可能性	5			○	1.0		19.0		54.0		26.0	
	(6)	エ	4	○			52.5		0.0		44.5		3.0	

## 2 数 学

### (1) 出題のねらい

#### ア 全般的なねらい

数量や図形に関する基礎的な概念や原理・法則についての理解の程度、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力等をみるために、基礎的・基本的事項を中心として各領域から幅広く出題している。

#### イ 問いごとのねらい

- 1 各領域において、基礎的・基本的な知識及び技能の習得の程度をみる。
- 2 根号についての理解の程度、具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表現する力、文字を用いた式を具体的な場面で活用する力等をみる。
- 3 一次関数についての理解の程度、二元一次方程式を関数を表す式とみて具体的な事象を考察する力等をみる。
- 4 箱ひげ図についての理解の程度、箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り判断する力等をみる。
- 5 三角錐や円周角についての理解の程度、図形の性質や三平方の定理を具体的な場面で活用する力等をみる。

### (2) 結果の概要と授業改善の視点等

#### ア 結果の概要

基本的な計算技能の習得の程度をみる設問、簡単な場合について確率を求める設問及び円周角と中心角の関係に関する設問では、正答率が全般的に高かった。

一方で、二元一次方程式を関数を表す式とみて具体的な事象を考察する設問、図形の性質や三平方の定理を具体的な場面で活用する設問では、正答率が低かった。また、基礎的・基本的事項においても、無理数であるかどうかを判断する設問、関数のグラフについて考察する設問等、正答率が低いものがあった。

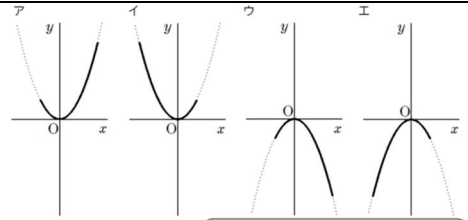
## イ 授業改善の視点等

### 関数についての基礎的な概念や性質を理解するための指導の充実

[大問1(9)① 正答：ウ 正答率：51.0% 大問3(1)② 正答：イ 正答率：46.0%]

1(9)①

この関数のグラフの $-2 \leq x \leq 4$ に対応する部分を実線で表したのとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。ただし、点Oは原点とします。



3(1)②

図1の  $a, b$  のうち、いずれか一方の値を変えると、図1のグラフは図2の実線のように変化しました。このとき行った操作として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。ただし、図2の破線は図1のグラフを表しています。

ア  $a$  の値を大きくした。 ウ  $b$  の値を大きくした。  
イ  $a$  の値を小さくした。 エ  $b$  の値を小さくした。

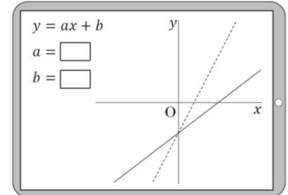


図2

〈分析〉大問1(9)①、大問3(1)②はそれぞれ関数  $y = ax^2$ 、 $y = ax + b$  についての基礎的な理解の程度をみることをねらいとしている。いずれの設問においても、誤答としてアを選択した解答が多かった。関数の変域やグラフの特徴についての理解が不十分であったと考えられる。

〈視点〉日々の指導では、表、式、グラフを相互に関連付けて関数の特徴を考察する力を養うことが大切である。また、グラフの変化の様子を視覚的に捉えやすくするために、一人一台端末を活用することが考えられる。例えば、関数  $y = ax + b$  について、 $b$  の値を固定し  $a$  の値を変化させるなど、条件設定を変えながら考えを深めさせたい。

### データの分布の傾向を比較して読み取り、判断する力を養うための指導の充実

[大問4 正答：(1)エ(3)正答例参照 正答率：(1)53.5%(3)19.0%]

(会話と箱ひげ図は省略)

(1) データの散らばりの度合いについて述べた次の文の (あ)、(い) に当てはまることばの組み合わせとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

(あ) は、すべてのデータのうち、真ん中に集まる約半数のデータの散らばりの度合いを表しており、極端にかけ離れた値の影響を (い) という性質がある。

ア (あ) 範囲 (い) 受けやすい ウ (あ) 四分位範囲 (い) 受けやすい  
イ (あ) 範囲 (い) 受けにくい エ (あ) 四分位範囲 (い) 受けにくい

(3) 太郎さんが、下線部のように判断した理由を説明しなさい。ただし、A市とB市それぞれの35℃以上の日数の割合を、二人が作った箱ひげ図から読み取って書きなさい。

〈分析〉大問4は、箱ひげ図についての理解の程度と、箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取ったり、判断の根拠を説明したりする力をみることをねらいとしている。(1)は誤答としてウを選択した解答が多く、箱ひげ図の意味の理解が不十分であったと考えられる。(3)は判断の根拠が不十分な解答が多く見られた。

〈視点〉日常の事象を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために必要なデータを収集して整理し、四分位範囲を求めたり箱ひげ図で表したりして複数の集団のデータの傾向を比較して読み取り、その結果をもとに説明するという一連の活動を経験させたい。その際、箱ひげ図の意味を十分理解した上で活用させることが大切である。

### (3) 応答率

大問	小問	正答例	配点例 (点)	形式		応答率 (%)						
				選択	短記述	正答としたもの	部分点を 与えたもの	誤答としたもの	無答			
1	(1)	12	2		○	95.0		0.0		5.0		0.0
	(2)	-1	2		○	81.5		0.5		16.0		2.0
	(3)	$a + 7b$	2		○	93.0		0.0		6.5		0.5
	(4)	$-5ab^2$	2		○	92.0		0.0		6.5		1.5
	(5)	$(x + 3)(x - 4)$	2		○	82.0		0.0		12.5		5.5
	(6)	$x = \frac{-5 \pm \sqrt{33}}{4}$	2		○	67.0		4.5		20.0		8.5
	(7)	$21\pi$	2		○	67.5		0.5		24.5		7.5
	(8)	$\frac{3}{10}$	2		○	74.5		0.0		24.0		1.5
	(9)①	ウ	2	○		51.0		0.0		48.5		0.5
(9)②	$-\frac{1}{2}$	2		○	30.0		0.0		60.0		10.0	
2	I (1)	イ	2	○		76.0		0.0		24.0		0.0
	I (2)	エ オ	2	○		16.0		0.0		84.0		0.0
	I (3)	※説明記述	3		○	44.5		24.0		29.0		2.5
	II (1)	44	2		○	86.0		0.0		14.0		0.0
	II (2)	$6n + 8$	2		○	54.5		2.0		35.0		8.5
	II (3)	32	2		○	59.5		0.0		34.5		6.0
3	(1)①	イ	2	○		72.5		0.0		27.5		0.0
	(1)②	イ	2	○		46.0		0.0		54.0		0.0
	(2)①	$-\frac{1}{2}x + 3$	2		○	40.0		0.0		56.0		4.0
	(2)②	90	2		○	40.0		0.0		55.0		5.0
	(2)③	$2x$	2		○	7.5		0.5		62.5		29.5
	(2)④	$(\frac{6}{5}, \frac{12}{5})$	3		○	3.0		0.0		70.0		27.0
4	(1)	エ	2	○		53.5		0.0		46.0		0.5
	(2)①	ア	3	○		63.0		0.0		37.0		0.0
	(2)②	ウ	3	○		74.5		0.0		25.0		0.5
	(3)	※説明記述	3		○	19.0		11.5		51.0		18.5
5	(1)①	120	2		○	78.5		1.5		16.0		4.0
	(1)②	$\sqrt{3}$	2		○	38.0		0.0		50.5		11.5
	(1)③	$\frac{2\sqrt{3}}{3}$	2		○	12.5		0.5		67.0		20.0
	(2)①	4	2		○	32.0		0.0		60.5		7.5
	(2)②	$\sqrt{2}a$	2		○	22.0		3.0		44.0		31.0
	(3)	$\frac{2\sqrt{2}}{3}$	3		○	3.5		0.0		72.5		24.0

#### 2 I (3) 説明記述

$$\begin{aligned} \sqrt{48} - \sqrt{3} &= 4\sqrt{3} - \sqrt{3} \\ &= 3\sqrt{3} \\ &= \sqrt{27} \end{aligned}$$

27 < 30 だから  $\sqrt{27} < \sqrt{30}$

すなわち  $\sqrt{48} - \sqrt{3} < \sqrt{30}$  (答)  $\sqrt{48} - \sqrt{3} < \sqrt{30}$

#### 4 (3) 説明記述

A市とB市それぞれの 35℃以上の日数の割合は、  
A市は、A市のデータ全体の 25%以下であるのに対して、  
B市は、B市のデータ全体の 50%以上であり、  
B市の方がA市より 35℃以上の日数の割合が大きいから。

## 3 英語

### (1) 出題のねらい

#### ア 全般的なねらい

思考力や判断力を働かせて英語を理解し、適切に表現する力をみるために、基礎的・基本的事項を中心として、英語の言語活動の全領域にわたって幅広く出題している。

#### イ 問いごとのねらい

- 1 話される英語の内容を正しく聞き取る力や適切に応答する力をみる。また、まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を的確に聞き取る力や聞き取った内容を踏まえて英語で表現する力をみる。
- 2 学校生活や英語学習の場面を素材として、基礎的・基本的な単語や文法事項等の理解の程度をみるとともに、実際のコミュニケーションにおいて、それらを適切に活用する力や与えられた情報に基づいて適切に英語で表現する力をみる。
- 3 英語による発表や話し合いから、理解した英語の内容を整理したうえで、文章の概要や要点を捉える力をみる。
- 4 英語による会話及び会話の内容に関する資料から、英語の内容を正確に読み取る力や英文と資料を関連させて情報を整理し選択する力をみる。
- 5 まとまりのある英語の文章から、内容を正確に読み取る力、段落の概要や文章の要点を捉える力をみる。

### (2) 結果の概要と授業改善の視点等

#### ア 結果の概要

英語を聞いて説明されている内容として正しいものを選ぶ設問や、必要な情報を的確に聞き取る設問では正答率が高かった。一方、まとまりのある英語を聞いて、聞き取った内容を踏まえて英語で表現する設問では正答率が低かった。

英文と資料を関連させて情報を読み取る設問では正答率が高かったが、基礎的・基本的な単語の理解の程度をみる設問及びそれらを活用して英語で表現する設問では正答率は低かった。また、まとまりのある文章の内容を正確に読み取り、段落の概要や要点を捉える設問の中にも正答率が低いものがあった。



## イ 授業改善の視点等

### コミュニケーションを支える文法の習得・定着にむけた中間指導の充実

[大問2](4)① 正答：(き) wrote (く) to try / trying 正答率：(き) 24.5% (く) 27.5%



[Sana]

Look at this book. Josh Wood is my favorite writer. (き) He (write) this book five years ago. It's about a boy who goes on an adventure to "Blue Castle." The book taught me something important. (く) Sometimes, (try) hard may be difficult. However, I should keep going.

(4)① <指示文省略>

〈分析〉大問2は、基礎的な語彙や文法の働きを理解し、文脈の中で活用する力をみることをねらいとしている。全体的に正答率が低く、語彙や文法知識の正確な定着には至っていないことがうかがえる。(4)①は、動詞の語形変化の知識を問う設問である。(き)では、過去形にする必要があると判断はしていても、過去形と過去分詞形の形の区別や、過去分詞形を用いる受け身及び現在完了形と、過去時制との区別ができていない解答が散見された。(く)では、不定詞または動名詞を用いる必要があるという判断はできていたが、(き)と同様に、正確に表記できていない解答があった。

〈視点〉言語形式の習得には、学習した知識を生徒自身が繰り返し運用していくことが必要である。言語産出の機会を十分に保障することは肝要であるが、産出機会を増やすだけでは正確な運用には至りにくい。知識は有していても、正確に運用できていない生徒に対しては、生徒が産出した英語を、適切な言語形式を用いて教師が言い直すなどのフィードバックをし、生徒に言語面での気づきを促すような中間指導の工夫と充実が求められる。

### 概要を捉えるために、複数の情報を整理しながら英語を聞くこと・読むことの指導の充実

[大問3]B(3) 正答：エ 正答率：32.5%

(3) 次は、Ami と話し合いをした日に Joe が書いた日記です。二人の話し合いの内容に合うように ① ~ ④ に入れる英語の組み合わせとして最も適当なのは、ア~エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

Joe が書いた日記

Ami and I will give a gift to Cathy. I think a ① fan is good. I think we should give her something ② in Japan. However, Ami thinks something ③ is good. I learned a ④ fan can be used for shade. Tomorrow, we'll ask Cathy.

<選択肢省略>

〈分析〉大問3 B(3)は、会話の内容をまとめ直した英文を用いて、会話中に出てきた情報を整理し、会話の概要を捉える力をみることをねらいとしている。発言者、贈り物の案及びその特徴を整理し、Joe 目線で書かれた英文であることを踏まえて、英語の組み合わせを選択しなければならない。情報整理が的確にできておらず、情報の提示順が日記と会話とで異なることに気付いていない解答が見られた。

〈視点〉情報が提示される方法はテキストやスピーチの形式によって様々であるため、どのような形式であっても、提示された情報を整理し、概要を捉えることができるようにしたい。大問3 B(3)は、それぞれの発言者から情報が提示されたやり取りのあと、Joe が日記を書く場面である。聞くまたは読む活動の目的・場面・状況を明確にすることで、単にキーワードを書き留めるだけでなく、図表などを活用して提示された情報を簡潔に整理する必要がある言語活動を設定することができる。例えば、第三者に説明するために、やり取りを報告者の立場で聞く活動が考えられる。

(3) 応答率

大問	小問	正答例	配点例 (点)	形式			応答率 (%)					
				選択	短答	記述	正答としたもの	部分点を 与えたもの	誤答としたもの	無答		
1	A(1)	ウ	2	○		93.0		0.0		7.0		0.0
	A(2)	ア	2	○		96.0		0.0		4.0		0.0
	A(3)	イ	2	○		74.0		0.0		26.0		0.0
	B(1)	イ	2	○		76.0		0.0		24.0		0.0
	B(2)	エ	2	○		67.5		0.0		32.5		0.0
	C(1)	ウ	2	○		88.5		0.0		11.5		0.0
	C(2)	エ	2	○		79.0		0.0		21.0		0.0
	C(3)	have been there once	3		○	5.0		11.5		45.0		38.5
2	(1)(あ)	エ	2	○		47.0		0.0		52.0		1.0
	(1)(い)	ウ	2	○		72.5		0.0		27.0		0.5
	(2)(う)	March	2		○	50.0		0.0		42.5		7.5
	(2)(え)	enter	2		○	1.5		0.0		85.5		13.0
	(3)(お)	member	2		○	17.5		0.0		69.5		13.0
	(3)(か)	foot	2		○	5.0		0.5		72.5		22.0
	(4)①(き)	wrote	2		○	24.5		0.0		70.5		5.0
	(4)①(く)	to try	2		○	27.5		1.5		60.0		11.0
	(4)②	read it to him	2		○	40.5		0.0		58.0		1.5
	(4)③	borrow it from the library	3		○	3.5		9.0		57.0		30.5
3	A(1)	エ	2	○		79.0		0.0		21.0		0.0
	A(2)	ウ	2	○		56.0		0.0		44.0		0.0
	B(1)	ア	2	○		47.0		0.0		53.0		0.0
	B(2)	how about	3		○	17.5		12.5		48.5		21.5
	B(3)	エ	2	○		32.5		0.0		67.0		0.5
4	(1)	ウ	2	○		81.0		0.0		19.0		0.0
	(2)	イ	2	○		66.5		0.0		33.5		0.0
	(3)	ウ	2	○		82.5		0.0		17.5		0.0
	(4)	エ	2	○		50.0		0.0		50.0		0.0
5	(1)	a short story	2		○	39.5		1.5		54.5		4.5
	(2)	エ	2	○		55.0		0.0		44.5		0.5
	(3)	ウ	2	○		33.5		0.0		65.0		1.5
	(4)	人々を幸せにする	2		○	54.0		5.0		29.0		12.0
	(5)	languages	2		○	8.5		4.5		70.5		16.5
	(6)	ウ オ	3	○		20.0		0.0		76.5		3.5